

ン会
コ研究
来研究
未クリ
近ク

牡蠣殻利用、で予備実験 後添加型流動剤

25年度第1回の協議会開く

近未来コンクリート研
究会(十河茂幸代表)に
よる2025年度第1回
目のテーマ別協議会が16
日、広島市中区で開かれ
た。協議会には、実会場
への出席と全国からのW
EB参加を含めて延べ約
70人が参加。3協議会合
わせて約6時間の長丁場
となったが、コンクリー
トの延命化や脱炭素の研
究、施工性改善に向けた
議論をさらに深めた。

午前に行われた脱炭素
コンクリート技術研究
(S)協議会では、広島工
業大学の坂本英輔教授が
中心となり、コンクリー
ト工学会年次大会202
5「低炭素型ポーラスコ
ンクリートの製造方法及
び基礎特性に関する実験
的研究」の内容が情報共
有されたほか、広島県か
ら相談があったという牡
蠣殻粉末のコンクリート
材料としての利用に関す
る可能性を議論。これま
でにない事例で研究の価
値があるとして、まずは
予備実験を試みることに
した。

土木学会年次大会の論文
調査結果が紹介され、協
議会内でも議論。締固め
の合理化を目的とした新
技術も示された。さら
に、後添加型の流動化剤
増粘タイプによる施工性
改善に関する話題では、
予備実験を行うことに
し、希望者が参加するこ
とになった。

また、コンクリートメ
ンテナンス協会の江良和
徳氏を中心に進めている
「RC構造物の延命化技
術研究(M)協議会」で
は、冒頭でNEECO西
日本エンジニアリング中
国の山本雅行氏による博
士論文「塩害環境下にあ
る既設コンクリート構造
物の品質評価に関する基
礎的研究」に関する講演
が行われ、凍結防止剤由
来の塩害などについて質
疑応答。長崎県端島(軍
艦島)での補修技術調査
への参加計画なども紹介
された。

次回協議会は、12月16
日に開催する予定として
いる。



また、午後から開かれ

た「コンクリートの施工
性改善技術研究(CII)
協議会」では、広島工業

大学の竹田宣典教授が主

査を務め、施工性改善に

適した技術として、打ち

継ぎ処理剤などに関する

議論が行われた。

た。

取扱件数では、「その

町村」は178件(同
8・7%減)と、軒並み

逆下式橋台・橋梁上部工
L21・5m、プレテンシ
mf

工期Ⅱ26年10月13日

L

0%
79
18・
こ

数量
30
比で
0
こ
18・
山
9%
ラス
の大
いて
なっ
43
02
2万
で

が7
55
1万
245
39
岡山
新規
3
3%
15
に再
で